

小山市立博物館

# 博物館だより

2012  
8.30

# 55

第60回 企画展

# 近世小山見聞録

平成24年10月27日(土)～12月16日(日)

恩川と日光街道によって、近世の小山へは様々なものが運ばれてきました。物資だけでなく人や文化、情報も交通の要衝である小山を通りました。小山評定ののち江戸幕府の礎を築いた徳川家康はもちろん、江戸幕府の将軍たちは日光社参で、松尾芭蕉は弟子の曾良と、伊能忠敬は測量の旅で小山を訪れた記録があります。

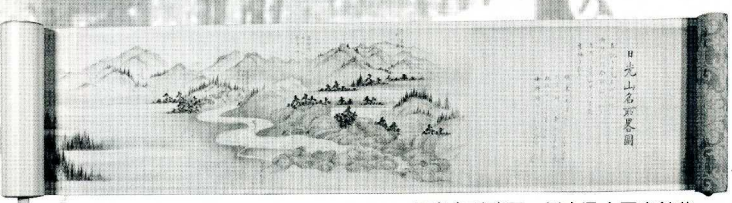
今回の展示では、小山を訪れた人々が書き残した紀行文を中心に、そこに書かれている当時の様子を描いた錦絵や絵巻物、宿場で使われた道具などから新たな「見聞録」(見聞きした人による記録)を創りあげ、近世小山の情景を追体験していただきたいと思います。

## 記念講演 「遠山金四郎がみた下野国の風景」

平成24年11月11日(日)13:30～ 博物館視聴覚室  
講師：坂本達彦氏(國學院大學栃木短期大学専任講師)  
申込み：電話(0285-45-5331)にて



伊能忠敬肖像(国宝)  
伊能忠敬記念館蔵



日光名所略図 栃木県立図書館蔵

入館料 大人200(100)円・高大生100(50)円・小中生無料 ※括弧内は団体料金  
開館時間 9時～17時(入館は16時30分まで)  
休館日 10/29(月)、11/5(月)12(月)19(月)26(月)、12/3(月)10(月)

## 大集合！はさみをもったよろい武者

～エビ・カニ・ヤドカリの世界～

7/21(土)～9/2(日)まで、栃木県立博物館地域移動博物館『大集合！はさみをもったよろい武者～エビ・カニ・ヤドカリの世界～』を開催しています。

エビ・カニ・ヤドカリの仲間は種類も豊富で、『甲殻類』(体に節、そして多くは背中にじょうぶなよろい[甲ら]をもった動物たち)の代表と言えます。

エビ・カニ・ヤドカリは、水のある場所ならば地球上の至るところで生活しており、磯遊びや川遊びなどで目にする機会も多い、ごくごく当たり前に見られる動物です。しかし、その生活の様子など、私たちが知らないことも意外にたくさんある動物です。

今回の展示では、誰もが知っている、私たちにとって身近な動物の1つであるエビ・カニ・ヤドカリにスポットをあて、彼らの分類の仕方や体のつくりの特徴、生態などについて紹介しています。皆さんの心に浮かんでくるエビ・カニ・ヤドカリの姿に、新しい発見が加わるかもしれません。私たちが住む栃木県で見られるお馴染みの種から外国で見られる珍しい種、さらには『海の幸』として愛されている種まで、たくさんのエビ・カニ・ヤドカリが大集合していますので、ぜひ楽しんでいただきたいと思います。

今回の展示を通してエビ・カニ・ヤドカリの面白さを知っていただくとともに、不思議がたくさん詰まった生物の世界に目を向けるきっかけにいただければ幸いです。

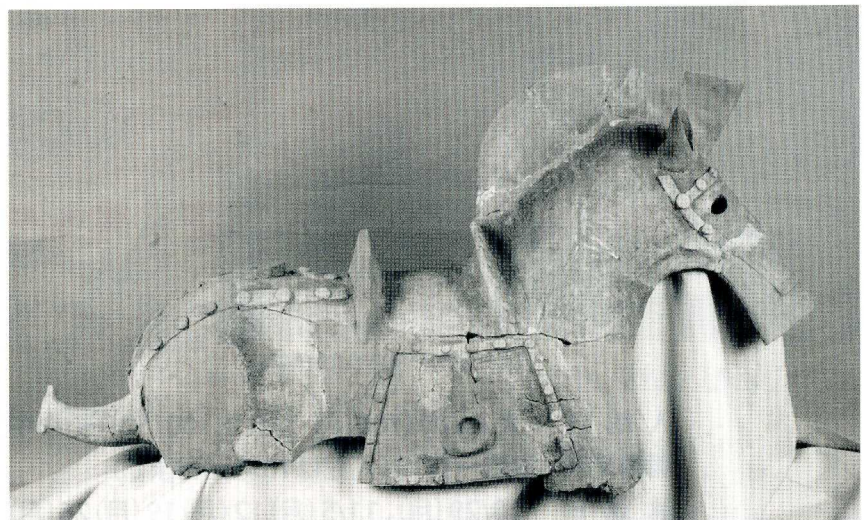
世界最大のカニ タカアシガニ

### 収蔵資料紹介

## 寒川古墳群三味線塚古墳出土 馬形埴輪 (6世紀)

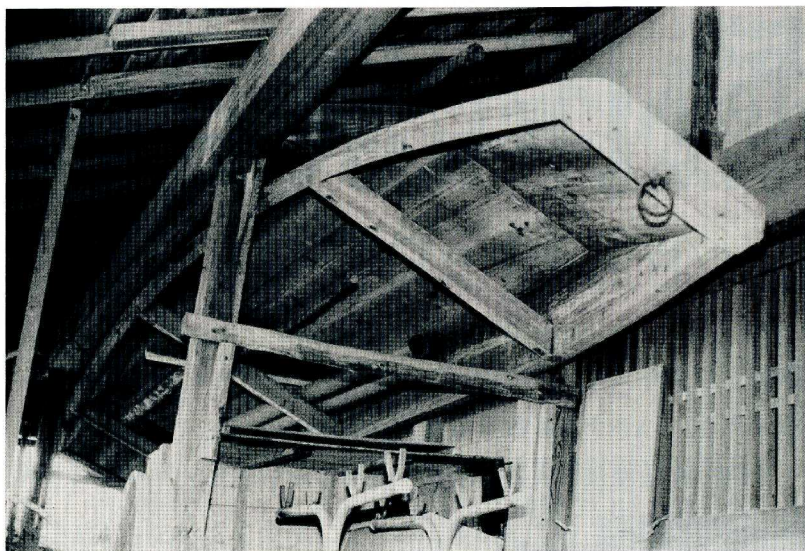
寒川古墳群は、5世紀後半から7世紀初めまで古墳が造られつづけた大古墳群でした。

三味線塚古墳は、6世紀中ごろに造られた寒川古墳群中最大の古墳で、田や畑のアゼの形から全長50m以上の前方後円墳であったと考えられています。桑畑として残されていた墳丘の一部からは、円筒埴輪と3頭分の馬形埴輪がみつかりました。このうち、最も残りのよいものがこの馬形埴輪です。脚部は失われていましたが、右半身のほとんどは残っていました。推定全長は1mを超える大型のものと考えられます。顔面には面繫おもがけ、背にはくら鞍・障泥・尻繫や辻金具が表現されており、当時の馬具を知る貴重な資料となっています。



## 渡良瀬遊水地と生井のくらし

今年7月、国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録された渡良瀬遊水地は、豊かな自然環境でその価値が認められましたが、本来は大雨の際に水を溜め込み、下流や周辺地域での洪水を防止して人々の生活を守るという重要な役割を担っています。遊水地の一部が妨がる小山市最南部に位置する生井地区は、渡良瀬川・思川・巴波川に囲まれた栃木県内で最も土地が低い地域で、江戸から明治期の古文書の記録を見ると、2～3年に一度は水害にあっていたことがわかります。まさに洪水常襲地だったこの地区の人々は、集落全体を堤防で囲う「輪中堤防」をつくり、家々では避難場所として「水塚」という人工の塚を築き、家の軒下には水が出たときの足となる「揚げ舟」を置くなど、常に大水に備えて暮らしてきました。



水塚に備えられた揚げ舟

明治後期から始まった渡良瀬遊水地の新設をはじめ、河川改修や築堤事業などの大規模な治水対策によって、現在では小山の洪水も昔話になりつつあります。しかし、ここ数年の気象状況を振り返ると、小山でもこれまでにない大雨にいつ襲われるかはわかりません。生井のくらしに染みこんだ先人たちの災害に備える知恵と心は、いつでも心に留めておかななくてはならないものです。

### コラム

### 博物館職員雑記帳

## 「関心をもつ」で新しい世界

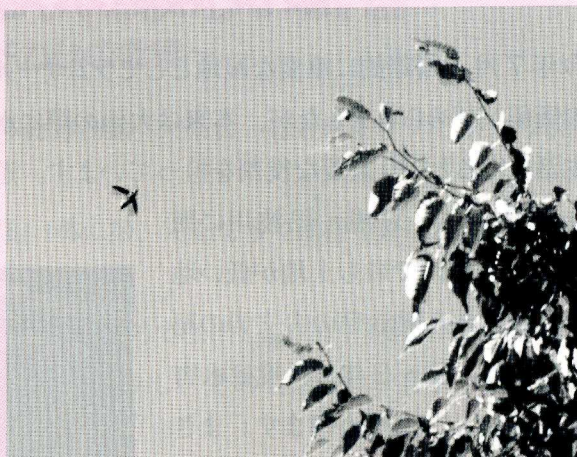
指導主事 小倉 敦史

この夏、我が家から5匹が旅立っていきました。これ、アゲハチョウの話です。庭の山椒の木で1匹の幼虫を見つけたのをきっかけに、子どもたちの手によって次から次へと家の中に持ち込まれました。新しいえさを用意したり、フンの始末をしたりと世話をするのはもちろん私の仕事。でもさなぎから出てきて羽を広げるあの姿、それをもう一度見たくてつい頑張っていました。まったく昆虫に触ることのできない長男も、庭に飛んできたアゲハチョウを見て、「この前のチョウが帰ってきたよ。」と大喜び。この数週間、我が家はアゲハブームに沸きました。

博物館の職員として働いて1年ちょっと。昆虫教室で子どもたちに話をするのをきっかけに、昆虫に興味をもちはじめた私ですが、興味をもったことでひとつ新しい経験ができました。昆虫に限らず、野鳥に古墳、神社やお寺に夜の星空、いろいろなものについて目が行ってしまう今日この頃。博物館での仕事を通して「まず関心をもつこと」そのよさを実感しています。

# 季節の一枚 「ヤマトタマムシ」

博物館の近くに大きなケヤキの木があります。7～8月の頃、晴れて日差しの強い日の午後、葉の茂った梢の周囲を、赤緑の金属光沢を光らせながら、ヤマトタマムシが飛び回ります。ヤマトタマムシの成虫は、エノキやサクラの葉を食べていることが知られていますが、ケヤキの葉も食料にしているようです。・・・たまたま、採集できた成虫を飼育してみようと試みましたが、まったく葉を食べませんでした。エノキやサクラの葉を代わりに与えても、無理でした。素人には飼育は難しいようで、自然での飛翔を楽しく観察するのがベストだと思いました。



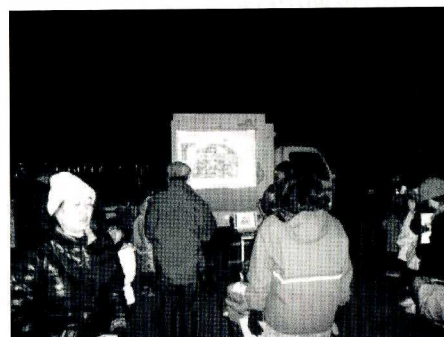
毎月第2土曜日 生井公民館で実施中！

## 平成24年度 後期観望会の見どころ

毎月第2土曜日に定例観望会を開催しています。昼間は博物館駐車場において太陽の観測を行い、夜は生井公民館において季節ごとに見られる星座や星の観測を行います。

これからの季節は天候も比較的良好、空気も澄んできますので、星の観測には良い時期となる上、見どころもたくさんあります。例えば、秋から冬にかけては、太陽系最大の惑星である木星の観測シーズンに入ります。『ほっしー☆OYAMA』号搭載の望遠鏡では、木星の縞模様まで見ることができますので、ぜひ多くの方々にご覧いただきたいと思います。また、冬になると星空は一気ににぎやかさを増し、惑星以外にもオリオン座やすばる（プレアデス星団）といった有名な星座や星団なども見ることができます。

博物館の観望会への参加はもちろん、ご家庭でも夜空を眺めてみてはいかがでしょうか。

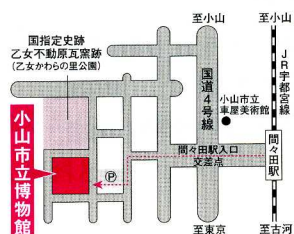


### 寄贈者芳名(平成24年2月～7月)

次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- 横倉上坪観世音講(小山市) 観音講道具
- 古谷 常夫(小山市) 双眼鏡・単眼鏡
- 倉持 治夫(小山市) 軍刀・軍隊手帳
- 提灯・幟旗・棒秤 他
- 渡辺仲治(小山市) 棒秤・電気コテ
- 高橋 一夫(小山市) 柄鏡

## 博物館ボランティア・天文ボランティア募集中!!



発行年月日 平成24年8月30日  
 発行 小山市立博物館  
 〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)  
 電話 (0285) 45-5331 FAX (0285) 45-5247  
 H P <http://www.city.oyama.tochigi.jp/kyoikuiinkai/hakubutukan/>  
 印刷 株式会社ダイサン小山